

刊夕日二十月五



定価一圓五角 月刊金五拾銭 郵費五拾銭  
廣告料五號十二字一圓 行金五拾銭  
日曜祭日休 翌日休  
發行所 常磐毎日新聞社 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞社 常磐毎日新聞社

### 李官堡の激戦と 大越中佐の戦死に就て (八)

岡本少将閣下御前講演

大隊長は前進途中倒れたる分少尉に寄り添ふて何か爲て居られる模様、危ない〜と當方から覺へす叫んだ譯ですが其内に大隊長は軍刀を以て少尉の圖囊を切り取り直ちに横になつて廟の壁に寄りそひ傳ふて疾馳し來られ一も二もなく大隊長を容收し得て昇天の思をなし、士氣大に振りました當時大隊長は一彈の擲過傷を受け刀刃は其尖端小鋸状を爲し接戦格闘の跡を偲ふに充分なものであつた、大隊長は大分疲勞の態でありましたが元氣は又仲々當る可からざるものがありました。

予は思はず分少尉の傍に寄り添はしたることが危険にして全く無茶であると思ふに興奮して大隊長に具申せしに大隊長は單に頭を上下して取り合はれず切り取たる分少尉の圖囊から二葉の地圖を取出して只々叩頭して居られたが稍久しうして義經の弓流しと違ふと一言された、私は非常に其深慮と非壯の決心に感涙し暴言を陳謝しました、出口に於て露兵と格闘したる兵

卒は第五中隊の既教育補充兵の杉範太郎と三浦某と共に是亦既教育補充兵でありました。  
平素寡黙にして極めて温順禮義に厚い兵卒であつたが當時の格闘振りには宛然とし尙明かに眼底に印像せられて居ります、此時分が何時頃にあつたか少しも頭に前後回想して見ると九時稍過ぎと思つて居ります、其後敵が第一回の逆襲を東正面から北方に掛けて突進し來ましたが激戦數度にして之を撃退しました、敵の損害は餘程多くありましたが益々北方より増加して我を壓迫し來ました、大隊長は自ら刀を振つて第一線を叱咤せられました。

而して此時分から既に彈藥乏しくなり負傷者彈藥收集班を設けて之を集むることと致しました、之より先き屢々傳令を差遣して小行李彈藥の補充を要求せるも傳令皆途に墜れ一も達せず損害亦益々多きを加へ刻々悲境に入るが如く思はしめました、仍て大隊長は第三大隊長北川少佐の圖り

(當時聯隊は三軒屋にて負傷せられたり) 何とかして此實況を報告し且つ速に彈藥補充を了するにあらざれば爾後益々頻繁となる虞ある敵の逆襲に對し遂に支持する能はざるに至らんと頗る悲痛なる會合が行はれました、當是第三大隊本部下士も殆んど斃れ第二大隊書記及傳令は全滅と云ふ關係にありて先任大隊長として大越大隊長愛色は一通りではありませなんだ、茲に於て予は大隊長の苦衷を懷ふ時徒らに座視するに忍びず乞ふて其任に當らんことを以てするや大隊長は頭を振つて許さず、大隊の將校殆んど斃れ存するもの僅二四名に過ぎず、今此一角を守備せる予が他行せば此一角を如何にするかと云ふ言葉がありました。

#### ▽新刊紹介▽

▽婦選 五月號 加藤梅子「獨逸大統領選舉とヒツトラーの國民社會主義運動」  
▽地圖學四松「伸びゆく印度の婦人」ラス、ビハリ、ボリス「民國教育の過程」竹中繁 其他「ラデオと子供、婦人座談會」お役所見學「拓務省の卷」等記事滿載(定價廿錢、東京市麴町區麴町三の十三、婦選獲得同盟)

葬具と靈柩自動車御用達

新らしく安い

## 造花

町川新町平

### 橋本屋

番三六一話電

## 三井

### タクシー

電話六八五番

### 江戸前料理 合巻

御家庭... 御膳二人以上

- 一人前 圓五品附
- 二人前 圓廿錢六品附
- 三人前 圓五十錢七品附

ゼヒ一度御試食下さい

仕出し 錦水

電四五四番

### 磐城名産

らか鹽と節鯉

## 魚問屋

店理代平命生本日大最優最

榮盛賀志

番一二三電 目丁四平

### 初夏来る

緑の止!

静かな水郷を尋ねる.....

初夏のピクニックに一層愉快なMSカメラ

素的に良く寫るので 大評判.....

MSカメラ相談部新設

今回皆様の御便宜を計りMSカメラの相談部を新設致しました、今迄御撮りになつた寫真でよく出来なかつた方又はこれから御初めになる方で御解りにならぬ方はどんな事でも御遠慮なく御相談下さい、皆様の良く御解りになる迄演説して御教へ致します。

- 小型判カメラ 附屬品附 金五十錢より各種
- ベスト判カメラ 同 金貳圓より各種
- 名刺判カメラ 同 金四圓より各種
- MSカメラ特約店

いづみや玩具店

カメラ部

### 増田耳鼻咽喉科 醫院

平南町 電話四八二番

### 専門 内科一般

住宅診 内科は何でも診療致します

往診 呼吸器病ばかりではありません

平南町六五

### 川井内科診療所

醫學士 川井重之

女醫 川井安子

電話一八一番

赤い目に一滴できく

かゆ目に一滴できく

### 神教水

(新容器入)

家傳 目薬

平町二丁目(電三三六)

### 堀藥局

# 地獄の一丁目迄も 石炭がギツシリ

## 現在炭量六億七千八百萬噸 海岸下は一面に無盡の炭田

### 最近調査 監督局の發表

石城炭田は明治十年以降既に六千三百萬噸からの石炭を掘り出してゐるが依然盡きる所を知らず今般仙臺鑛山監督局が調査研究した結果によれば現在の炭量は六億七千八百四十五萬八千九百五十一噸とあるから國內工業が如何に

急激な發達をしても確實に大丈夫である、石城炭田の炭層は南北に走り九度乃至十五度の傾斜をもつて東方に向つてゐるから石城附近の海岸下一面が無盡の炭田といふ結論になり途方もなく景氣のいゝ話である

炭層は一番層から六番層に亘り内郷炭坑が最近六番層の優秀な部分を發見し目下探索しつつ頻りに發掘に努めてゐる現在發掘中の深度は入山炭坑の地下二千三百尺をレコードとするが現代の科學では地下三千尺程度の發掘しか出来ないといふから一寸非觀望せられるなほ同炭田の土中深く埋もれてゐる

石炭量は疏水

九十六萬一千八百七十九噸地下一千尺程度中になると急に増加して一億二千三百八十五萬四千七百八十五噸となり地下二千尺に下れば一億九千三百三十五萬三千八百八十七噸、さらに地下四千尺になれば三億五千三百六

十三萬二千噸と増加して止まる所を知らぬ有様であるから

附近は、地獄の一丁目まで石炭が詰つてゐるといふものである

## 餘儀なく 金肥を用ゆ

### 年々増加す 昨年より高い相場

本町に於ける肥料の相場は昨年より高く大豆粕一圓四十錢を唱へて居るので郡農會は各農家に對し推肥製造の普及並に自給肥料の獎勵に努めて居るが一般農家は年々金肥の増加を餘儀なくされて居り一月以來平驛に到着した肥料數量は約七百噸の増加を見て居る

## 背囊五十人分

平商が新規に購入  
平商業學校にては教練の際

## 小學校長 協議總會

### 各種事項

縣下小學校長協議會石城支部總會は既記の如く来る十日午前十時より平第一小學校講堂に於て開催されるが今回の新入會員は平第二津田達造、山崎哲雄

上遠野高木長年 植田鈴木佐忠 田人青田直信 赤井第二大越國治 川部野木繁彌 川前鈴木榮治 大野近藤景助の諸氏で當日の協議事項は左の如くである

△建議 題  
縣下小學校兒童學力調査の結果を有効ならしむる方法を講せられん事を其筋に建議する事

△協議事項  
一、石城郡小學校教員會

## 調査研究したが 病因は判らぬ

### 梨園の奇病

石城郡赤井村大字大平の果樹組合の梨園に奇病發生した事は昨報の如くであるが農事試験神谷分場伊藤氏其他が病因に就き調査研究せしるも判明せず目下生育期にある幼果が一向發熱せず例年より廿日間も生育が遅れて居り非常に憂慮されて居ると

## 海軍

### 簡便點呼 陸上と海上で

既報本縣に於ける海軍簡便點呼は七月四日(陸上)同廿二日(艦上)に亘り夫々執行されるが四日の陸上點呼は午前七時より平署會議室にて平、植田、四倉、富岡各署管内八十五名を海軍少佐花田行武氏が執行官として

々則立案に就て

- 一、本縣體育協會石城支部に關する件
- 一、本郡小學校教育刷新上努力すべき事項

△打合事項

- 一、東部聯合教育會研究發表者選定の件
- 一、衛生視察研究學校選定の件
- 一、初等教育會出席會員選定の件

## 認可

### 簡便敷設

石城郡内郷村の簡便水道敷設は十一日縣から認可されたので十五日起工式を行ふことになつたが最初は工費二千八百圓で綴小島四百戸へ給水する筈

## 女子青年 役員會開會

平女子青年團役員會は来る十四日午後二時より第一小

學校に於て開會左記事項を協議すると

- 一、團長補欠選任の件
- 一、春期總集會開催の件
- 一、副團長を顧問に推薦し感謝狀贈呈の件
- 一、新團員募集の件

## 九分通りが ムシ歯に悩む

### 平第二校の調査

平第二小學校に於ける本年度齲齒の罹患者は全校生徒千五百六十九名の内千三百五十七名に達して居り殊に甚しいのは低學年に多いが各學年別は左記の如くである

- 一學年(二二〇)
- 二學年(二二三)
- 三學年(一九三)
- 四學年(一八三)
- 五學年(二七〇)
- 六學年(一三六)
- 高等科一學年(一一五)
- 二學年(一〇)

## 平映畫界

回平 館 松竹時代劇市川右太衛門 大江美智子主演「酒田重右衛門」日活現代劇小杉勇 夏川靜江主演「白い姉」日活時代劇澤田清 山本嘉一主演「安藤對馬守」

回世界館 タトロ社映畫「黄金の世界」新興時代劇結城三郎主演「天保入墨奇談」東活時代劇澤村國太郎主演「寛永豪傑總進軍」

## 平町人事

△出主  
△胡摩澤九〇一當時石城郡四倉町本町一三七武田傳吉氏三女ツタミ

△結婚  
△東京市日本橋區濱町二丁目一松下松治郎氏(四二)田町七三鈴木カツヨ(三二)

△埼玉縣秩父郡影森村字上影森山中辨吉氏(二五)三丁目二小鍛冶由子(二二)

△東京市豊多摩郡淀橋町大字角筈伊豆野義春氏(二五)一丁目一九水野靜子(二二)

# 愈よ附近各村に 瀬踏み目的の交渉

## 十五日に關係村長の 出席を求めて審議す

### 合併の實現化

平町の都市計劃に依る附近村落合併問題は各委員が再三具体案に就き協議し來つたが關係各村當事者とは未だに完全な打合せもなさず意嚮も確めてないので來る十五日飯野、内郷、好間、平窪、神谷各村長の出席を求め合併問題に關する愈よ瀬踏み目的の交渉を進める事になつたと

平第三校の 平第三  
低年童話會 小學校

にては本日午前十一時より講堂に於て低年童話會を開いたがプログラムは左の如くであつた

(開會の挨拶)校長先生  
(唱歌)二人の兵隊さん  
(一ノ三)お話し林先生(遊戯白地に赤く)一ノ一(お話し)花澤先生(閉會の挨拶)新家先生

## 山崎氏の榮譽は 郷黨のほこり

### 祝賀の宴を張り 其の喜びを頌つ

既報石城郡在郷軍人聯合分會長山崎清三氏は今回の軍人勅諭御下賜五十年記念の祝典に際し長くも名譽ある天盃を下賜され且つ陸軍大臣の軍事特別功勞者として表彰を受けたので是れを郷黨の誇りとし今回伏見町長を始め石城將校會、平商工會、磐城中學校、軍人分會青年團等が發起となり來る十四日午後三時より住吉屋本店に於いて同氏の榮譽を

祝すると共に其の喜びを頌つ事になつたが會費は二圓にて一般の出席を希望すと

定員外の  
お客が轉落

石城郡高久村大字下高久字水門百九十一番地自動車運轉手鈴木三郎(三)は本年一月十一日午前七時頃豊岡村山口吉五郎を定員外に乗車せしめ同村回春園附近に於

平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

### 女房の行方 奈良縣

南葛城郡大正村字橋原居住山口又治郎の妻シヨウ(三九)は本月六日午前十時頃多少精神に異状を呈し自殺の目的で家出したので又治郎は各方面で行衛を尋ねてゐた處七日付にて東京下谷局の消印ある通知があり東北地方から北海道方面の海岸で自殺する旨を知らせて來たので本日平署に妻の捜索方を願出た

### 平町の交通網

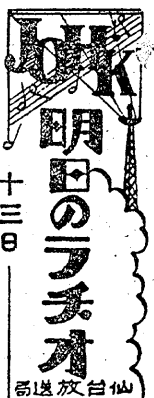
#### 延長實に十六里餘 最近の平町狀勢

最近平町役場で調査した町内の狀勢を見ると戸數四千八百八戸に二萬七千七百四十人の人口を抱擁する市街は東西二十五町、南北十九町に亘り其面積は三百三十五町餘を算して居るが市内を通ずる道路の延長は國道が廿三町三十間、縣道が一里十二町、町道が實に十五里四町三十八間に及び合計延長十六里三十九町六十八間の道路が交通網を張つて居る

### ビールの陽氣

#### 花時が案外のシケで ビールの山を脊負ふ

初夏の宵一杯の生ビール下戸にとつてもビールのいゝ陽氣になつた、ビールの取次店では何うも花柳界がバツとしないので困ると言つてゐる、三月中旬に平町各店が協定して單價の値上げを斷行して見たが意氣込んでゐた今年の花見は案外のシケでビールの山を脊負



今晚は北東の風薄曇り明日は朝晴時々曇る

### 今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) お話「お人形芝居」内山憲堂  
後七、三〇 講演「ラヂオの調査に就て」逓信省電務局業務課長田村謙治郎  
後八、〇〇 義太夫「三十三所花の山壺坂寺の段」竹本君太夫  
後八、三〇 講談「幸助餅」一龍齋貞丈

### 明日の部

後九、〇〇 箏曲 菊地佐喜久外  
後九、三〇 (奉天より) 後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告  
後九、一〇 料理献立「芝麻團」東北女子職業學校  
前九、三〇 家庭講座「乳幼児の性癖發展と其矯正法」黒川直胤  
後九、〇五 俚謠「佐渡お

### 學生の汽車通學

#### 九百六十一名

平町各中等學校では鐵道省より列車増結時間改正の參考資料として汽車通學生の調査方の通牒に接し調査した處に依ると各學校の現在數は左の如くである

平職業紹介所報告

### 求人部

△農夫 五十歳以下 尋卒  
月十圓(高久村某)  
△疊職見習 十六迄 高卒  
仕着小使(平町某)  
△料理見習 十八才 尋卒  
月五圓位(平町某)  
△女中 二十五迄 高卒  
月三圓位(飯野村某)

### 求職部

△土工夫 三十一才 高一  
修給料面談(小野新町某)  
△給仕 十七才 高卒 給料面談(内郷村某)  
△女中 二十四才 尋卒 給料面談(平町某)  
△工場雑夫 二十三才 高卒 給料面談(好間村某)

### 黄金の雨に 埋らせて

#### 其上負傷さす

昨十一日午後六時頃石城郡内郷村字宮の涌井自動車店の運轉手荒川福松(三九)が貸

# 幕末剣士

【禁載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲

眞庭念流達人櫻井五助

【第四十八席】

七郎次はおかめの出した金を見るとびつくりして七「大層持つてゐるな、これはお前の給金を貯めたものか」

かめ「イエ、旦那のお金だよ」

七「それでは窃み出したか」

かめ「お前を助け出すにしたら處で外から泥棒が入つたやうに見せて置かぬとわたしした事が判る、それで金簞笥からお金を持つて来たのだよ」

七「ウンさうか、それではこの金は貰つて行く」

かめ「わたしも茲十日ばかりの間にはお暇を頂いて歸るから待つておくれ」

七「それでは窃み出したか」

かめ「お前を助け出すにしたら處で外から泥棒が入つたやうに見せて置かぬとわたしした事が判る、それで金簞笥からお金を持つて来たのだよ」

七「ウンさうか、それではこの金は貰つて行く」

かめ「わたしも茲十日ばかりの間にはお暇を頂いて歸るから待つておくれ」

七「後を氣を付けなよ、旦那に知れると大變な事になる」

かめ「大丈夫だよ」

七「それでは俺は直江津へ行くぞ」

とおかめに別れて七郎次は高田より遠くも離れぬ直江津の漁師又兵衛の住居に通れる、此方はおかめで自分の部屋に引取り枕に就いたが七郎次の身を案じ其夜は睡られない中に



六「夕べ泥棒が入つて旦那の鍵を窃み金を窃つて序で七郎次さんを窃んで行つた」

かめ「オヤマアそれは大變だね」

六「旦那は驚いてゐる、此方へ来てくれ」

かめ「何處へ行くんだよ」

六「旦那が呼んでゐるよ、此方へ来てくれ」

かめ「お前の袖を押して伴れ」

六「大變だ、入つた入つた」

かめ「旦那様、夕べ泥棒が入つたさうでござりますが

かめ「オヤマア」

主「これは七郎次に縁故ある者の所業と存する」

かめ「左様でございますか」

かめ「オヤマア」

主「これは七郎次に縁故ある者の所業と存する」

かめ「左様でございますか」

主「然しもう賊は知れた」

かめ「その泥棒は判りましたか」

主「知れたナ悪い事は出来ぬもので何程企むとも自然と知れる、イヤ心配するナ

六「此處に居る者に相違ない、他より入り込みしものでは無い」

かめ「それはどういふ譯でございませう」

主「賊は證據を残り置いたこれを見ろ」

かめ「それを出したは絹糸の附いた一本の針、おかめはぎよつとしたが打騒ぐ胸を押鎮めて

かめ「それが泥棒の残して置いた物でございませうか」

主「さうだ、コレおかめ貴様は七郎次を逃し居つたナイヤ覺えないと云はせぬぞ此針が貴様の悪事を物語り居る、これは男の持つものでは無いぞ、さあ七郎次を何れへ逃したか、それを云へ」

かめ「飛んだ事を仰しやいます、なんで私が七郎次さんを逃しませう」

主「知らぬとは云はせぬ、申さぬか、云はぬとあらば云はせるやうにして云はして遣る、この不屈者め」

かめ「これは飛んだ事でございませう」

主「その外にこの土藏を排けて七郎次を連れ出した」

其處へ引倒し主「六藏これへ繩を持つて參れ」

六「ヘエ大變な事になつたナ、それだから夕べ俺がお前の頭髪には大變針がある」と然う云つたぜ」

それを聞いて主殿が主「昨夜おかめは針を髪にさして置いたか」

六「鬻にさしてゐました」

主「然らばいよ、此奴が七郎次を逃したに相違ない外より賊の入りし態に見せる爲め金子を奪ひ居つたナコレ六藏繩を持つて」

六「大變な事になつた、今持つて來ますよ」

「ロクマク人」

二期の心配無用

不治の病とは過去の事です、醫藥を用ひて拂々しくない方靈能偉力を有する「マムシ」を用ひて下さい、但し素人の幼稚なるマムシの服用法にては効果ありません、今回研究部員が秘法公開致します、遠慮なく相談にお出下さい、

◎特別におすゝめ致し度い方説明書差上ります。

心臓病の人 胃腸病の人 性力欠乏の人 神

経衰弱の人 体力の衰へる人 食慾なき人 冷性婦人病の人 腎臓病の人

東京市淺草田島町九一川上蛇類研究所 平町五丁目二二(金光堂時計店裏)

代理販賣所 井内

鹽豚販賣開始

三二二三屋 平田町

醫學博士廿推獎

胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症 肥り度い人の福音 熱くなく痕つかす無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器

福島縣平町五ノ廿八 志賀齒科醫院

福島縣平町白銀町九 産婆 關口悦子

藥及特効薬五週間分付 金拾參圓 上製桐箱入一揃

藥及特効薬五週間分付 金拾圓 上製桐箱入一揃 (説明書呈)

吉田眼科病院

平町五丁目、電話六八番

木村科醫院

平町五丁目橋際 電話三〇九

器灸温ムウチラ

表價定